

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0792830028		
法人名	有限会社横山製作者		
事業所名	グループホームあゆりの里		
所在地	福島県西白河郡矢吹町井戸尻496-1		
自己評価作成日	平成25年2月20日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-fukushima.info/fukushima/top/do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉ネットワーク
所在地	〒970-8232 福島県いわき市錦町大島2番地
訪問調査日	平成25年3月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

- ・利用者様、職員の心のメンタルケアに取り組んでいる
- ・自家の畑があり採れたての有機野菜を食事に取り入れている
- ・暖炉がある(暖かくオレンジ色効果による心の穏やかさの採用)
- ・故郷キャラバンと称してなじみの地域を訪れている
- ・職員の資質向上に力を入れている(研修会への参加、資格取得への支援)
- ・リフレッシュ休暇(年に10日)、誕生日休暇制度を取り入れている

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者は職員のスキルアップに力を入れ、事業所全体でも質の高いケアを目指している。職員もそれに応え、利用者に対しては家族的なほのぼのとした介護風景が見受けられる。独自の企画である故郷キャラバンは、利用者の希望の場所を訪れることにより、感性を刺激し喜びを生んでいる。
事業所全体としてもコミュニケーションはうまく取られていて、管理者による職員へのフォローも見受けられ、それが利用者の心地よいケアに繋がっている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求 めていることをよく聴いており、信頼関係ができ ている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地 域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関 係者とのつながりが広がったり深まり、事業所 の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね 満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な く過ごさせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスに おおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送りの時間に理念の唱和をし意志統一を図っている。	事業所理念は、朝の申し送り時に全員で唱和し、それぞれが暗記している。管理者と職員は、日々のケアが理念に沿ったものであるか否か常に振り返り、さらなるサービスの向上を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	年に数回のイベント(カラオケ、琴演奏、フラダンス、太鼓演奏)を企画し近隣の住民や利用者様、利用者様家族との交流の場所を提供している。	事業所は、いろいろなイベントを通じ、利用者と家族又、近隣住民との交流をはかっている。事業所としても、利用者の暮らしぶりを、もっと地域に理解してもらえるよう、様々に働きかけている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域団体の役員として講演や講演会などを開催し、情報を共有している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に利用者様や関係者を招き、その時に出された課題や評価を報告しサービス向上に活かしている。	利用者と職員、家族、地域包括支援センターの職員が主なる出席者である。利用者の日々の様子や所内の活動報告が行われ、入居状況や職員の教育内容についても話し合いがなされている。	地域との連携を深めるために近隣の方にも呼びかけ、多方面からの意見をサービスの向上に活かすことに期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者との話し合いの場には、積極的に参加し事業内容や経過などを話し、協力しあいサービス提供に取り組んでいる。	地域包括支援センターを通じ、事業所の内容は市町村担当者に逐次報告され連携がなされている。又、サービス向上のための情報も積極的に受け入れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	転倒や徘徊により施設外に出てしまう恐れのある利用者の場合は、家族の承諾を得て一時的に柵や施錠を安全の為にする事がある。	利用者一人ひとりの状態を把握し、不安の時は職員が付き切りでケアしている。月に一度の定例会には事例を提案し、振り返りの場としている。全員で学習を踏まえ、身体拘束をしないケアをめざしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は、高齢者虐待防止関連法を学ぶ機会を設けて頂き、虐待防止に努め高齢者に優しく安全で安心な環境を提供できるよう努力している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	専門の講師を招き、学ぶ機会を持ち活用できるよう支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、利用者様・家族様に十分な説明を行い納得するまで説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族様が来所された際に、管理者が家族様や利用者様と時間を取り、意見や要望を聞き入れ、ケアに反映させている。	事業所の一角に談話室を設け、家族が来訪した際に利用者や職員との話し合いに使用されている。家族の要望はできる範囲内で受け入れ、利用者のためのより良いケアに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1度の定例会議を設け、代表者により運営や方針、職員の意見や提案の場を設け活かされている。	職員の意見や提案は、主に定例会で発表されている。所内のイベントは担当制によって運営されていて、職員はそれぞれのアイディアを生かすことができる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、法律に則った適正な運営方針の元、営業を行い明るく元気で活気のある職場環境作りに、努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	地域団体役員の特権を活かし、研修会などを企画したり、施設外の研修会に参加させるなどスキルアップにつとめている。また職員一人ひとりと定期的に、面談している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者や職員は、研修会に積極的に参加し、同業者との交流をはかりサービスを向上につなげている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人様が不安に思っていること、困っていること、求めていることをよく聴き、本人との信頼関係を築くように努力している。すぐにその事に対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族様等が、不安に思っていること、困っていることを聞き、それを理解し対応している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	他からの紹介状があればそれを参考にしている。さらに会話を深め何が必要か、ニーズは何かを考え、サービスの内容を考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人様と会話を多くするように努めており、そこから表情や感情を察知し支えある関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様が、家族の事を心配することがあり、職員が連絡を取り安心させている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	故郷キャラバン(地域に出かける)と称して、ハイエースに乗り(8名)馴染みの場所に出かけている。	利用者の昔の友人の訪問も見られる。利用者の体調はじめ状況を見極めながら、ユニットごとにそれぞれの出身地や馴染みの場所に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	感情が上手に表現できず孤立したり、利用者同士のトラブルにならないよう、職員が一緒に関わりたり会話に入ったり支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、関わりや、継続を必要とする利用者様・家族様には、関係を断ち切らないつき合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様の思いや、今後の希望・意向の把握に努めている。 困難な場合は、本人本位にいろいろ調べたり考えたりしている。	喫茶店でコーヒーが飲みたい希望の利用者をお連れしたり、人気のカラオケ大会は所内で日常的に開催されている。通院の道すがら、買い物に回ることもある。利用者のさりげない様子や言葉から希望や意向を受け止めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人の生活環境 これまでの受けてきたサービス等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様の一日の過ごし方、心身状態、潜在能力を総合的に把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすための課題と、ケアのあり方について、本人様、家族様、必要な関係者と話し合い、意見を出し合い反映し、介護計画を作成している。	職員は利用者一人ひとりの介護計画に基づき、日々のケアを万全なものに近づけている。又、状態の変化が少しでも見受けられた場合は、担当医を含めた関係者とよく話し合いをし、柔軟な介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、カンファレンス時に情報を共有している。さらに、介護記録に気づきの記入をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	研修や、講習を通して常に勉強し、サービスの提供を考えている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	区の老人会、町の祭に行くなど地域との関わりをもち、利用者が楽しめる生活を支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設と同地域の方については、従来通りの医療機関で受診をして頂き、地域県外の方は本人及び家族と話し、納得の上、施設かかりつけ医療機関にて適切に受けられるよう支援している。	入所時に本人や家族と話し合い、希望するかかりつけ医となっている。家族が遠方の場合、受診時はスタッフが付き添い結果を手紙で報告している。歯科や泌尿器科の受診も本人や家族の希望により個別に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は、利用者との日常生活の中で関わりを持ち、気づき、又は異常がないか注意を払い、看護職へ情報を伝えて支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	会田病院、西白河病院、あゆり歯科、岩谷歯科との医療機関と協働している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	院内外での研修・講習に参加して常に急変に対応出来る訓練をしている。	本人や家族の意向を事前に確認している。最終的に入院治療を望まれることが多く、これまで所内での看取りは行われていない。利用者の重度化に伴い、スタッフのスキルアップなど希望に沿った対応ができるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	専門機関の立会いの元、災害時に利用者が避難できるよう全職員が年数回、訓練を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	専門機関の立会いの元、災害時に利用者が避難できるよう全職員が、年に数回訓練を受けている。	消防署員の参加による防災訓練を年1回実施し、他に職員全体での訓練も実施されている。避難場所として近隣の民家にも協力要請を行い、有事に備えている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お名前を呼ぶ時は、フルネームで呼ぶことを心掛けている。	名前で呼ぶ時や声掛けなどの言葉使いに配慮している。管理者は閉鎖的な環境に慣れないよう、注意してスタッフに声掛けをしている。入浴時、女性利用者の場合は女性スタッフ・男性の場合は男性スタッフの対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意志を尊重して、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ケアプランの元、利用者様を優先し日々の生活が満足される用職員一人一人が心掛け、向き合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その人らしいスタイルで、日常生活が送られるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が食べたいと言う物をみんなで、時には外食に行くように支援している。	利用者から食べたいものを聞き、栄養士が献立に反映している。自家栽培の野菜を多く取り入れ、バランスの良い食事が提供されている。月に1回程度、利用者希望の外食が行われ、みんなが楽しみにしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	その人にあった量や、大きさや固さを考え、食べやすくできるよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者個人の能力に合わせ、介助などにより食事の後、就寝前に口腔ケアを行っておいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	起床時、就寝前、飲食前後、就寝以降2時間ごとに個人の能力に応じて排泄を促したり、誘導の支援を行っている。	利用者個々の排泄行動パターンなどから時間ごとのトイレ誘導を行い、清潔で心地よい状態が維持されている。自家製ヨーグルトの摂取により排便管理に工夫がなされている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	規則正しい食生活や食材を提供、又はサプリメントを使用し、個人の予防を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一定の時間の中、いつ入浴するか本人の希望する時間に入浴できるよう、支援している。	利用者個々の希望に合わせて入浴剤を使ったり、時間帯や入浴の順番を考慮し、安心してゆっくり入浴できるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の睡眠リズムを把握して、そのリズムを大切に安眠できるよう傾聴し、安心できる環境を提供している。 利用者の身体状況に合わせ、散歩や廊下歩行を実施している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	常時職員の目の届く棚に保管し、決められた担当者が飲み忘れの無いよう利用者別に一日分の薬を出している。 内服薬の使用法、副作用を知り異常の早期発見に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カーテンの開け閉め、洗濯物たたみ、調理の下ごしらえ(皮むき)など役割を持って頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外気浴は、四季を通して天候の良い日にウットデッキにて実施している。 故郷キャラバンと名付け、地域のほか白河や那須方面にユニットごとに出かけている。(8人程度) また本人の希望があれば、家族様や職員と個別で外出している。	家族同伴での外出や買い物ツアー、外食など利用者の希望に沿った外出がなされている。独自に実施の故郷キャラバンによる外出支援は利用者の楽しみになっている。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	1～2人の金銭管理をしている。 他は家族管理である。 時々、買い物をしてお金を使うことを忘れないように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者の要望があれば、自分で電話で話したり、手紙を書いたり出来るよう支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	さくら館は、ピンク色で。みどり館はグリーンで色分けしている。 落ち着いて生活できるようにしている。	やわらかな色合いの「さくら館」「みどり館」共にウッドデッキからの日差しが温かく、落ち着いた空間となっている。フロアの飾りつけは季節感があり、家具の配置は利用者が動きやすく違和感の無いように工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ウッドデッキには、テーブルやベンチが設置されており利用させている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている。 (グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている。 (小規模多機能の場合)宿泊用の部屋について、自宅とのギャップを感じさせない工夫等の取組をしている。	使い慣れた家具、親しみのある物を搬入して頂き落ち着いて生活している。 壁等には、家族の写真、誕生日の色紙などを飾られている。	使い慣れたタンスや好きなテレビなど、利用者の大切な思い出に配慮し、心地よく快適な生活ができるよう支援されている。家族の写真や家具の配置など本人らしい雰囲気が保たれるように工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	洗濯物のたたみや、食事の下ごしらえ(皮むき等)、新聞紙折りなどをやっている。		